

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0173100348		
法人名	有限会社 ドリーム・和光		
事業所名	グループホーム まどか		
所在地	北海道上川郡上川町西町15番地の1 (電話) 01658-2-4320		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年3月7日	評価確定日	平成20年3月21日

【情報提供票より】(平成20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年6月25日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤	8人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000円	その他の経費(月額)	13,500~18,500円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 81.5歳	最低	76歳	最高	87歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上川町立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に位置したこのホームは、周辺には町立病院などの施設があり入口にはアーチ型の看板が掲げられ、広い敷地内は菜園が作られています。ホーム内の共用の空間は広くゆったりとしており、座敷のスペースも確保されイベントや行事等では舞台として活用されています。運営者の認知症の母親へのケアの思いからホームを立ち上げ、「馴染みの環境・馴染みの関係・馴染みの生活」を理念として取り組んでいます。又、地域との交流も、高校生のインターシップの実習の受け入れや小学生が訪問しての人形劇やプレゼント交換会の実施、ホーム主催の演歌歌手のコンサートで、地域の人にも還元できるような取り組みも行っており、地域との交流を積極的に取り組んでいます。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での課題としては、冬期間の外出の支援の点ですが、買い物や馴染みの美容室への訪問、天気の良い日の外気浴などを積極的に行い改善されています。今後も更なる充実を期待します。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で行い、外部評価についても、前回の評価調査でのアドバイスを取り入れホームだよりに認知症の理解を促す文章を取り入れるなどして、全職員で話し合い評価を活かして具体的な改善に取り組んでいます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、評価日現在7回実施されています。主な議題についてはホームの運営に対する要望 行事の案内と取り組み 認知症についての勉強会 ホームの利用者の状況報告 イベントの地域・家族の協力体制について
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者の日々の様子は、ご家族がホームに来訪された際に伝えている他、「まどか通信」で個々の普段の暮らしぶりを報告し、金銭預かり表を毎月領収書とともに郵送し報告しています。又、利用者に変化のあった際には、事前事後に電話にてご家族に報告しています。意見、要望があれば情報を共有し、よく話し合い、速やかに対応して、結果をご家族に報告しています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町内会主催の公園の花の定植に入居者の方と職員が参加したり、小学生のボランティアサークルの人形劇やプレゼント交換会、高校生のインターシップの実習の受け入れ、ホーム主催のコンサートに町内の人にも多数参加して頂いたり地域との交流に努めています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「なじみの環境・なじみの関係・なじみの生活」をホームの理念とし、住み慣れた地域で生活を続けて行くことを目指している。又、職員全員でケアについて5つの介護理念を作り上げ日々、取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念と職員自らが作り上げた介護理念を共用スペースの見やすい場所に掲示しており、毎日の申し送り時に勤務者で唱和し理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会主催の公園の花の定植に入居者の方と職員が参加したり、小学生のボランティアサークルの人形劇やプレゼント交換会、高校生のインターシップの実習の受け入れ、ホーム主催のコンサートに町内の人に多数参加して頂いたり地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、外部評価についても、前回の評価調査でのアドバイスを取り入れホームだよりに認知症の理解を促す文章を取り入れるなどして、全職員で話し合い評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については評価日現在7回開催されている。メンバーは利用者、家族会の代表、町内会長、包括支援センターの職員、町の職員及び管理者・職員で構成され、ホームの運営に対しての要望を聞き、イベントの地域・家族の協力体制について話し合いサービス向上に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、常に運営状況を報告したり指導を仰ぎ、サービス向上に努めている。</p>		<p>運営者は、地域に認知症の理解が進むように認知症キャラバンメイトの取り組みを積極的に町に働きかけするなどの意見や提案を行い、町全体の介護サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の日々の様子は、ご家族がホームに来訪された際に伝えている他、まどか通信において個々の普段の暮らしぶりを報告し、金銭預かり表を毎月領収書とともに郵送し報告している。又、利用者に変化のあった際には、事前事後に電話にてご家族に報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時に、意見、苦情を出しやすい雰囲気作りに努めており、意見、要望があればホームで情報を共有し、よく話し合い、速やかに対応して、結果をご家族に報告している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職を最小限に抑える為、職員の悩みや意見、相談を聞くように心掛けている。又、残業の無い様に配慮し職員の離職を防いでおり、代わる場合は、利用者へ影響しないように職員間で話し合いダメージを防ぐ配慮を心掛けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の勤務年数に応じて各種研修に参加させたり、自己研修を奨励し、積極的に資格取得を勧め、希望者には勤務調整するなど支援を行っている。又、ホーム内で支庁の保健師など外部からの講師を呼んで、感染症や口腔ケアの研修会を実施し、研修の機会を設けている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会を通じての、相互交流や研修会で意見交換を行い、相互の関係作りに努めている。又、今後は交換研修の実施も計画し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の本人からの聞取りの際に安心してもらえるように声かけし、事業所を見学してもらい、不安の無いような関わりを充分配慮して、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談や協力を仰ぎながら取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者にも職員と一緒に暮らしている意識を持ってもらうよう積極的に調理の方法を教えて貰ったり、花札、ぬり絵、折り鶴と一緒に作ったりして支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の望むものを「センター方式」の私の気持ちシートを利用し、普段のケアからの情報収集に努め、全職員で情報を共有して支障のない限り本人の思いを大切にしながら把握に努めている。</p>		<p>センター方式の私の気持ちシートで全職員が一人ひとりの気持ちを把握する事を心掛け、それにより、それぞれの職員の捉え方に違いがあるのが解り、詳しい情報収集が行われ、利用者の思いを大切にされたケアが実践されています。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、全職員の意見を取り入れてケアの課題や変化を明らかにし、職員が分かりやすくより具体的な内容になるような介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員の適切な監理のもとに、三か月に一度カンファレンス、毎月の会議でモニタリングを実施して、利用者の状態の変化のある場合は随時見直しを行い、本人や家族、職員の意見を取り入れ現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、通院や本人の希望や要望がある場合、買い物、散歩、理美容院の支援、時には気晴らしのドライブなど、なるべく本人の希望が実現できるように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者それぞれの主治医とも連携を取り、気軽に相談できる関係を築いている。また、利用者、家族の希望や要望に応じて状態変化などについても適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、医療機関と連携して利用者・家族とも早い段階から話し合いをしながら慎重に対応するよう全職員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような対応を心掛け、プライバシーや羞恥心の配慮にも注意して支援している。また、記録の扱いもについても、十分に注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員が利用者一人ひとりの気持ちを把握され共有されている。又、利用者の希望や思いを尊重し、買い物や調理や食事の準備、折り鶴、ぬり絵、カラオケなどの趣味への支援、入浴や食事の時間など本人の希望やペースに沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状況に合わせ、できる部分は一緒に調理している。メニューを考えてもらったり、ゴマすりや、野菜の下処理、茶碗拭きなど行ってもらっている。又、好みや食べたい物の聞き取りをして献立を作成している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週、最低2回を基本に利用者の習慣や体調、希望に合わせて、柔軟に対応している。入浴を拒否される利用者には、声かけの工夫や、他の職員に対応を代わってもらう等、臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の能力や意欲により、畑の作業や調理の下ごしらえ、ゴミ捨てなどの役割を設定しそれが負担にならないように配慮している。又、花札、折り鶴作り、カラオケなどの趣味、気晴らしのドライブなどの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、買い物、散歩、近郊へのドライブ、天気の良い日は、外気浴など積極的に外出する機会を作るように心掛けている。又、町の行事や選挙がある場合にも出かけるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間の防犯の目的以外は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災等の緊急時対応マニュアルを作成し、年1回、利用者とともに避難訓練を実施している。実際の緊急避難時には、近隣住民に協力をお願いし、了承を得ている。又、施設長は年内に防火管理者の受講予定である。</p>		<p>今後は、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう運営推進会議で働きかけを行い、地域の人々を含めた火災避難訓練を実施するような取り組みを期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分摂取量を記録し、メニューもカロリー計算、栄養バランスを把握し、食事拒否の多い利用者や体調の変化に応じて、おかゆや補助栄養を導入などの工夫をしている。又、定期的に町の保健師に献立を見て貰い、アドバイスを頂いている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分には花を飾ったり、季節の飾り付けをし、調理の音や香りで生活感を感じられるように配慮している。又、座敷のスペースも確保され、洗濯物を置んだり、行事の際の舞台としても活用され、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には仏壇や家族の写真を持参されたり、入居者の希望で床頭台を持って来られたり使い勝手の良いように使い慣れたものを持ち込んで頂き、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。